

# 学 位 論 文 の 要 旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 病態修復医学講座 肝胆膵・移植外科学分野	氏 名	奥田 善大
-----	--	-----	-------

主論文の題名

**Clinicopathological Factors Affecting Survival and Recurrence after Initial Hepatectomy in Non-B Non-C Hepatocellular Carcinoma Patients with Comparison to Hepatitis B or C Virus**

主論文の要旨

【目的】わが国における肝細胞癌の多くはB型、C型肝炎を背景としていたが、近年、非B非C型肝細胞癌の割合が増加している。また最近、非アルコール性脂肪性肝疾 (NAFLD) および非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と肝細胞癌の関連が注目されている。そこで、非B非C型肝細胞癌における初回肝切除後の生存および再発に影響を与える臨床病理学的因子を、特にアルコール摂取量と背景肝の病理組織学的所見に注目し、B型およびC型肝細胞癌と比較し検討を行った。

【対象と方法】2000年1月から2013年4月までに当院で初回肝切除を施行した201例を対象とし、まずウイルス性肝炎の存在によりB型肝細胞癌(B群: n=32)、C型肝細胞癌(C群: n=93)、非B非C型肝細胞癌(NBNC群: n=76)の3群に分け、さらにNBNC群をアルコール摂取量により非飲酒群(エタノール換算で20g/day未満、NALP: n=30)および飲酒群(エタノール換算で20g/day以上、ALP: n=46)の2群に分け、初回肝切除後の生存および再発に影響を与える臨床病理学的因子について比較検討を行った。

【結果】NBNC群はB群およびC群と比較して、高血圧、糖尿病の合併率および飲酒率がそれぞれ47.4%、35.5%、61.8%と有意に高く、血小板数、PT、ICGR15が有意に良好であった。NBNC群における5年生存率(74.1%)は、B群(49.1%)やC群(65.0%)と比較して良好であった(NBNC群 vs. B群:  $P = 0.031$ )。NBNC群における検討では、性別、喫煙率を除く患者背景、術前・術中・術後因子およびNASを含む病理組織学的所見はNALP群およびALP群において、いずれも有意差を認めなかった。しかし、NALP群における5年全生存率および無再発生存率(84.4%/57.3%)は、ALP群(68.7%/31.9%)と比較していずれも良好である傾向を認めた。

また、多変量解析により、NBNC 群における全生存率に対する独立因子として、Child-Pugh B/C、intrahepatic metastasis および extrahepatic recurrence が同定された。

【結語】非 B 非 C 型肝細胞癌患者は、生活習慣病との関連および良好な術前肝予備能によって特徴付けられ、B 型あるいは C 型肝細胞癌患者と比較して、その予後は良好であり、非飲酒患者においては、飲酒患者よりも良好な予後が期待できる。非 B 非 C 型肝細胞癌患者の予後不良因子としては、術前肝予備能不良および腫瘍進展が同定されたが、NAS に基づく背景肝の病理組織学的所見と予後およびアルコール摂取量との関連は、今回の検討では実証されなかった。